

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・地元では海外チャーター便の誘致に全力を挙げており、その効果が出てきた。台湾・香港からのチャーター便は昨年が99便であったが、今年は200便を超える様相である。来道客は、特に涼しいということで、ゴルフや観光に目を付けて、道東地区に来ているようである。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・民間に限ってだが、予算は相当厳しいものの、かなりの数の物件が動き出す様子を見せている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・今年は気温の高い日が続いているので、夏の夏物への購買力が増している。通常は、セール・バーゲン待ちの買い控えが起こる時期も、コンスタントにプロパー商品が売れている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・夏の売り尽くしセールの場合には、カットソー・タンクトップ等、低単価商品の動きが良いが、それに合わせて初秋物や晩夏物をついでに買う傾向があり、まとめ買いがある。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・昨年に比べて気温が安定して、比較的暖かい状況が続いているためか、5月末に導入したATMの利用者が、1日平均で30～40人程度あり、若干ではあるが来客数のアップにつながっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・前年から比べると、6月は客数・売上とも増加した。薄型テレビ・DVDレコーダー・大型冷蔵庫・洗濯機などが良く売れた。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・アテネオリンピックに向けてAV商品、特に薄型テレビ・DVDレコーダーの販売が絶好調である。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・消費税の総額表示に合わせて1円単位を全て切り捨て、実質全体で1.6%の値下げとしたにも関わらず、客単価は前年並みで推移している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・申込件数・来店件数は昨年よりも低調だが、予定販売額は2桁の増加となっている。5月は前年よりも販売額が低下していたものの、7月から8月に向けての旅行の動きが回復傾向にある。
		その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・地元プロ野球チームの応援に熱が入ってきた。品切れが多かった関連グッズの供給も安定してきたため、グッズの売上も安定している。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・比較的天候が安定しており、衣料品に動きがみられる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・季節商品の売れ行きはまずまずだが、依然として購買傾向は慎重であり、高単価商品の売れ行きは今ひとつの状態である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・最近では、量販店やドラッグストアなどで安売競争に走っていることもあり、商店街地域の客の動きや買物の仕方、どちらかという安い商品に寄っている。正常な商売が段々やりづらくなっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・既存店の販売量が減少しており、新規店の売上の増加分は、既存店の減少でプラスマイナスゼロとなる。
スーパー（店長）		販売量の動き	・食品の売上は回復傾向にあり、来客数も戻りつつあるが、衣料品・雑貨の売上不振が依然として続いている。	
スーパー（店長）		来客数の動き	・6月の前年比は客数・売上とも5月を上回っている。大型店舗の改装効果や、青果を中心とした販促強化により売上高は徐々に回復傾向へ向かっている。	
スーパー（企画担当）		来客数の動き	・都市部のみの傾向であるが、好天続きの影響で行楽商材を買い求める客を中心に、来客数の回復傾向がみられる。	
コンビニ（エリア担当）		販売量の動き	・前年と比べて、酒の免許自由化に伴う酒類販売店の増加による影響があるが、他の商品に関してはそれほど差が出ていない。	
コンビニ（エリア担当）		来客数の動き	・商品単価が低下しており、チラシの頻度を増やしても、来客数が増加しない傾向にある。	
コンビニ（エリア担当）		来客数の動き	・来客数の回復はみられるが、売上に結びつかない。客が購買行動に対して興味を持っているものの、使える金額は増えていない。	

	衣料品専門店 (店長)	単価の動き	・客は単価の高いものよりも、単価が低くて良いものを多く買う傾向にある。
	衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・来客数は3か月前と比べて変わりないが、夏のボーナス時期ということもあり、買上率がアップしている。ただし、夏物衣料は単価はあまり高くないため、売上高としては決して良い状況ではない。
	乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・新型車が出たが、金額が安いにもかかわらず、思うように販売数が伸びない。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・小型車は売れているが、総売上台数がそれほど変わらないため、売上高は昨年より少なくなっている。
	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・受注量・販売価格ともに前年割れの状況である。回復の兆しもみられない。
	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・来客数も売上も昨年暮れから一向に変わらない。このままでは店の存続も危ぶまれる。
	住関連専門店 (営業担当)	お客様の様子	・特売バーゲン品等では目玉商品のみ購入が多く、消費税の総額表示で割高感を感じるためか、まとめ買いや高単価商品の購入の動きが悪い。後半の天候不順で季節商材の出足が悪く不振である。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・週末はほぼ前年並みであるが、平日の落ち込みがひどい。客単価は変わらないものの、来客数は前年比で15%の減少となっている。
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・ランチは2～3か月続いて盛況である。ビジネスマンの来客数が増加し、客単価も少し上昇した。夜の外食を控えて、昼は豪勢という会社員が増えてきたようだ。全体の売上は、レストランと個室の合計が、今年初めて前年並みとなった。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・3か月前と比べて観光客が少し入ってくるようになったが、それでも前年、前々年と比べると非常に悪い。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・今月は団体の大会や高校PTAの大会といった催しがあり、二次会への流れもあり、人の動きが良かった。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数は前年に比べると、若干少なくなっているが、昨年度が非常に良かったためであり、平年度ベースではやや良いということで、ほぼ変わらない。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・4月の売れ行きが好調であったが、GW明けからがっくりと減り、6月は開店休業状態となっている。全体としては、大きく変わっておらず、地方の旅行業の景気回復には、程遠いものがある。
	タクシー運転手 パチンコ店(店員)	お客様の様子 お客様の様子	・依然として繁華街への人出が思わしくない。 ・短時間の遊戯が多くなってきている。話を聞くと、残業等がなくなってきていることから、収入が減少しているためという答えが多かった。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・マイホームセンターもしくはモデルハウスの来場者数が全体的に前年に比べて減っている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・郊外店の影響が大きく、上昇気運に乗れず、販売量に変化がない。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・販売量が減少しており、前年比で86%となっている。
	衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・客の動きが非常に悪く、高額品の動きが悪くなってきている。
	その他専門店 [医薬品](経営者)	来客数の動き	・前月同様に来客数が激減している。薬局、病院に行かない客が増加しているようだ。
	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	単価の動き	・原油高騰により、買い控えがみられる。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・道外客の落ち込みが深刻である。一般団体の数量の減少、一団体当たりの人数の減少が顕著になってきている。一方、消費単価面でも、大都市圏からの利用客は利用金額が大きい、そうでない地域からの利用客はまだまだという傾向が依然としてある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・YOSAKOIソーラン祭りや札幌神宮祭りなどのイベントがあったことに加えて、例年よりも暑い日が多かったにもかかわらず、タクシーの利用が少なく、売上も昨年より大幅にダウンしている。

		タクシー運転手	来客数の動き	・選挙の前哨戦で夜の人出がますます少なくなっている。
	悪くなっている	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・4月ごろから連続して、販売量・販売額とも前年よりダウンしている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・昼食利用は主婦層を中心に上向き傾向にあるが、夕食利用が激減している。宿泊に伴う観光客の減少が大きな要因であるほか、接待客も減少している。
企業動向関連	良くなっている	通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先が明らかに忙しい。アポが取り難く、最近ほとんどがメールでの商談である。
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・いわゆる一流百貨店における販売額が増加しており、個人消費が底堅くなってきた。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・輸入品の動きは相変わらず堅調に推移している。また、建築関係、特にコンクリート製品等は、道内需要は相変わらず冷えているものの、本州の物件が道内に入り込んできて、道内企業が受注している。ただし、本州物件に絡まない業界・会社は相変わらず厳しい状況にある。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・国内輸送ではスポットの引き合いが頻度を増している。また、輸出貨物の紙パルプ製品が増量傾向となってきた。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・企業間格差があるが、業績が上向いている取引先が増えている印象がある。
		その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・高単価の商品等の販売量が増えている。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・消費税の総額表示へ変更になった4～5月の売上が低迷していたことから、取引先から、価格据置のまま内容を減らしたり、値下げを要求する動きが多くなってきている。一方、原材料や資材などは軒並み値上げになっており、製造メーカーの収支は悪化している。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金は低調である。素材価格は高騰しているが、価格転嫁できず収益を圧迫している企業が多い。YOSAKOIソーラン祭り期間中の観光客の入込みも前年を下回った。
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・毎年恒例のものとして、出稿していた協賛広告関連が、経費削減の名目でカットされることが相次いでいる。また、地元老舗の広告代理店が、5月末に自己破産の未倒産した。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引は依然として停滞傾向にあり、また建築着工についても停滞傾向にある。
その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）		取引先の様子	・官庁物件の発注はまだ少ないが、民間の製缶・機械加工・溶接の仕事が増えてきた。ただし、鋼材値上分を加工単価で削られ、状況は厳しい。	
やや悪くなっている		食料品製造業（団体役員）	取引先の様子	・加工用原材料が高騰しており、製品価格への転嫁が思うようにできない状況にある。
	金属製品製造業（統括）	受注量や販売量の動き	・住宅の需要が落ちているのが、着工が遅れているため、販売量が伸びない。	
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・営業職やテレマーケティングの求人が増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設業、食品製造、業務請負、病院介護系の求人層が顕著である。全体の求人件数としては前年比7%程度の伸びであるが、大手での大量採用の求人企業も増えており、実際の求人数は前年比10%前後まで伸びていると思われる。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大学への求人件数に加えて、会社説明会・採用試験等を行う会社が増えている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・卸売・小売・飲食・サービス業のパート・アルバイトの求人受件数が全体の80%で雇用形態に片寄りが見られるものの、求人件数自体に大きな変化はみられない。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は食品製造業と飲食業で増加したものの、サービス業と建設業で減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・今年は1～2月に大型ショッピングセンターの新規開店にむけた大量求人があったが、4月のオープン後、テナント等の関連求人もほぼ充足したことで、4、5月と月を追うごとに減少し、4か月連続で横ばいないし減少している。新規求人数は2か月連続で前年を下回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で15%増加し、月間有効求人倍率も前年を0.06ポイント上回る0.40倍となったが、依然として低水準であり、新規求人の増加もパートや就業地が管外の請負求人の増加によることから、管内の雇用環境は引き続き厳しい。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・就業場所が地元である求人で、大口採用などの雇用増の動きがあまりみられない。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-